

平成28年度 山梨大学COCセミナー in 北杜市 来場者アンケート結果

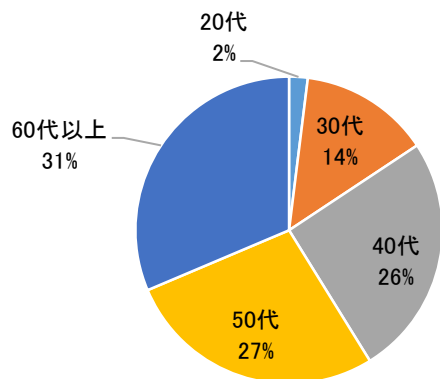
開催日：平成28年11月25日（金）

来場者数：89名

回答者数：51名

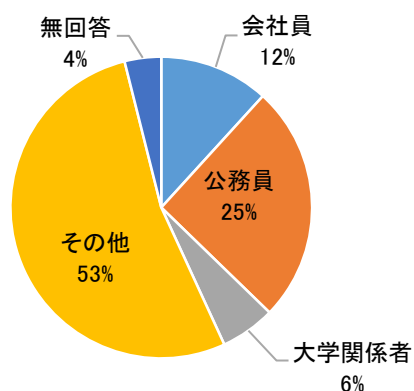
アンケート回収率 57%

1. 年代についてご回答ください。



	人数	%
20代	1	2
30代	7	14
40代	13	26
50代	14	27
60代以上	16	31

2. ご職業についてご回答ください。

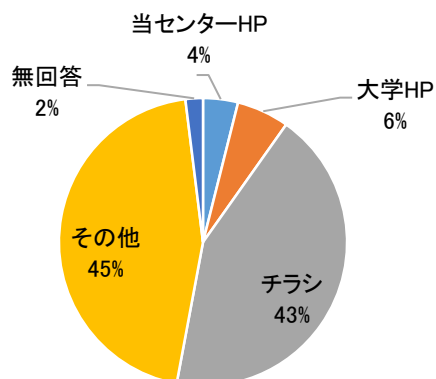


	人数	%
会社員	6	12
公務員	13	27
大学関係者	3	6
学生	0	0
その他	27	55
無回答	2	4

<その他回答>

農業、研究員、地域コーディネーター
地域おこし協力隊

3. 今回のセミナーを何で知りましたか？



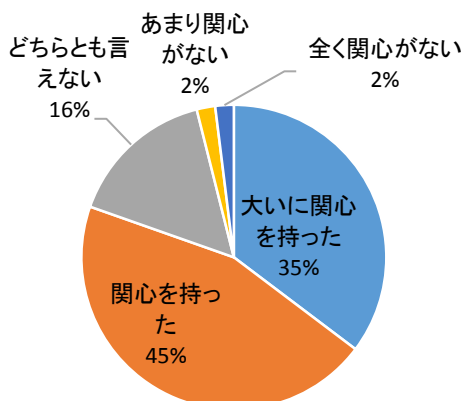
	人数	%
当センターHP	2	4
大学HP	3	6
チラシ	22	43
その他	23	45
無回答	1	2

<その他回答>

北杜市からの案内
山梨中央銀行からの案内

4. 本日のセミナーの感想をお聞かせください。

■ 講演1.「北杜市における農業活性化の取組み – 支援機関の立場から –」



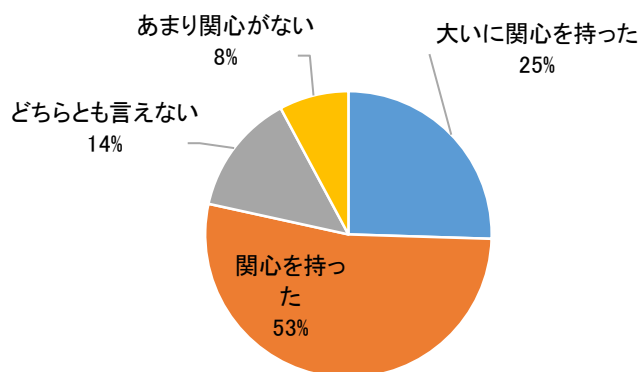
	人数	%
大いに興味を持った	18	35
興味を持った	23	45
どちらとも言えない	8	16
あまり興味がない	1	2
全く興味がない	1	2

<記述回答>

- ・地域活性化の取組み
- ・フードバレーの方向について期待と協力していきたい。住民の知るところとなっていきたいですね。
- ・自治体が各種取組みを行う中で地域の活性化を図っていることがわかった。
- ・地域とのコラボ
- ・町の全てに行きわたる戦略。
- ・限られた時間の中で生い立ち等に関する時間が長く、表題とは程遠い内容。表題に関する内容を聞きたかったので残念。後半の約10分間をもっと詳しく聞きたい。
- ・北の杜フードバレーの取組みおよび今後の展開。
- ・北杜市長の考え方で、これからの未来が良くも悪くも変わる。草津温泉のように。
- ・自然という地域の人達にとって当たり前でありすぎて価値を見つけづらいものを、どうすればうまく活用できるか、ただ利用するだけでなく守りながら共存していくにはどうすればいいのか、課題はたくさんあるが、うまくいけば北杜市、山梨県の魅力をもっと発見できると思った。
- ・立地条件を活かした取組みとしてポイントを外していない行政である。
- ・他の自治体も見習ってほしい。
- ・フードバレープロジェクト。今後の展開に期待するとともに行政側として、各部署がどう関わっていけるか、自分でも考えてみたい。
- ・フードバレープロジェクト。活性化には真の官民一体の取組みが必要と思われます。
- ・新規就農者の立場から、耕作放棄地の農地を紹介され1から土作りを行っているが、石や岩などを取り除くことから始め、すぐに農業が出来る状態ではなかった。もっとベースになる部分を整えてほしい。
- ・とにかく何か始めなければならないということ。
- ・農業主軸とした地に足のついた取組みをしている印象。
- ・グリホサート検査をしてほしい。
- ・初めて聞いた話が多かった。北杜市地域内での講演を各地にて。
- ・思いをもって行動する。
- ・農業活性化の事例。
- ・具体的な事例につながる農村活性のお話は大変興味深く聞かせていただきました。
- ・農業は自然に恵を求め「なりわい」。良の言葉です。
- ・次世代に継げる北杜市の農業の在り方。市の持てる自然環境を有効に活用した経済的に（収益性）を追求することも可能かと。
- ・農業から観光地域の活性につなげていく取組みについて。
- ・新しいネットワークを作り、地域の産業を盛り上げていくことの必要性を再確認しました。

- ・北杜市は農業をする環境に恵まれていると思います。安心、安全な特産品がたくさん作れると思います。ますます活性化することを祈っています。
- ・フードバレープロジェクト。
- ・農業とネットワークについての考え。
- ・地産地消をめざして作っている加工品を集めて販売推進が出来れば良いと思います。(横のつながりの必要性)
- ・観光資源の考え方。
- ・観光事業とも含めた事業を大いに期待したい。米・ブドウ以外の作物、花卉を取り入れてほしい。

■ 講演2.「地産地消&体験型総合教育モデルの構築の取組みから」



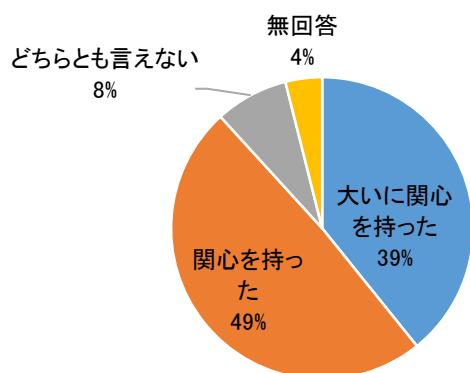
	人数	%
大いに興味を持った	13	25
興味を持った	27	53
どちらとも言えない	7	14
あまり興味がない	4	8
全く興味がない	0	0

<記述回答>

- ・乳酸菌の利用の具体例。
- ・製品が生まれていてすばらしいと思った。
- ・大学と自治体との連携を知ることが出来た。
- ・酵母について。
- ・乳酸菌の利用。
- ・前半約15分は不要な内容。
- ・表題に関する部分の話が少ない。研究開発の前はどうなっているのか。
- ・地域の酵母を活用した特産品の開発。
- ・大学の研究チームが支援金があればいろんな研究が進むが、一定の企画のみではなく、広い北杜市民及び企画に開発できる様になると良いと思います。
- ・大学と協力する事で、地域資源を利用しながら人材育成を行うというのは興味深かった。農家さんが作る事は出来てもうまく使うことが出来ていないという問題を解決して商品化するという実績がある事から実現性も高いと思った。
- ・地産地消にこだわった点。
- ・酵母から発する地域おこし。
- ・各地独特の酵母を見出し、特異的な産物を作り出す。
- ・どの地域・土地でも可能である。
- ・乳酸菌の活用。
- ・北杜市の野菜でも是非商品開発を！
- ・試飲会での酷評が共同研究につながった事例、大学がどんどん外へ出て行く必要性を感じた。
- ・地域の特産品のブランド化。少量でも出来るもの。
- ・バイオリゼーション。まめ吉。
- ・大学と市の連携があること。
- ・大豆を使ったヨーグルト。(初めて知りました)

- ・食べるブドウ。(これは新しいと思う)
- ・発酵製品を生かした特産品の開発が地域活性化に繋がる可能性がうれしい。
- ・官・学・民の流れがスムーズに商品化出来ている。
- ・地域企業との連携した商品開発への取組み。
- ・大豆で作った飲むヨーグルト、いいですね。今度、商品を購入して飲んでみます。ハーブで作ったヨーグルトはどうでしょうか？
- ・酵母の力。
- ・加工品の商品化の参考になった。
- ・発酵食品、おいに関心を持っています。
- ・事例にとっても興味をもった。
- ・大豆飲料のこだわり4点。
- ・大学との共同は興味深い。加工品アイテムの増に期待したい。(肉、木材)

■セミナー「地域資源の活用による地域活性 – 農業の取組みから – 」



	人数	%
大に関心を持った	20	39
関心を持った	25	49
どちらとも言えない	4	8
あまり関心がない	0	0
全く関心がない	0	0
無回答	2	4

<記述回答>

- ・地域活性化の具体的事例紹介と成功のポイント。
- ・p29 WSの構造。
- ・p37~40 10年以上にわたる取組みがすばらしい結果に繋がってきていると思う。
- ・北中市も寄り合いワークショップを実施してください。
- ・地区代表者ではなく、思いを持つ人達が事を起こすのだということ、継続するためには必要なことだと思います。
- ・新しい価値で考える。若い方(学生)の力。
- ・地域自治組織の再構築。寄り合いワークショップの仕組み。
- ・“地域再生の原理”：地域の再構築は興味深い内容でした。私は神奈川からの移住者なので、今の上野原にまさに必要な課題だと思いました。
- ・和歌山県の取組みは参考になるものでチャレンジしたい。
- ・住民自らが発見し動くことの重要性。ワークショップの取組み、構成。
- ・質問コーナーが興味深かった。
- ・コミュニケーションの重要性と、ファシリテーションの能力に依存する度合。
- ・参考になりました。
- ・地域の問題を解決する事を行政に任せるのではなく、住民が主体になることで、より実用的な問題解決につながるだけでなく、地域全体の活性につながると思った。実績につながれば地域の人の自信や活力につながると思うので、より魅力的な地域になっていくと思った。
- ・地域住民をいかに動かすか？まず、内発信をし、外部人材を取り入れて新しい風を吹かせることが大事である。
- ・住民が立ち上がるためのソフトの基盤整備の方法。

- ・寄り合いワークショップの必要性。
- ・地方事例は分かりやすかった。他県から移住して来た者なので、山梨県の状況がまだ良くわかりませんが、WSなどの取組みは県内ではやっているのでしょうか？
- ・地方が能動的に行動しなくてはならないということ。
- ・人口が少なくなることを認め、地域内で助け合って事業を起こす、行政が補助する。
- ・地域再生の原理。
- ・地域再生（創生）の方法。
- ・情報発信した地域を草の根的に応援する時代に入っているということ、寄り合いワークショップの事例は、自分の身に置き換えて考えることができ、おもしろかった。
- ・成功事例の説明で参考になったが、関心は持てないような気がした。行政に頼らないことは良い事ではない。
- ・Uターン、Iターン者の改新的な発想を取り入れる事の重要性を感じておりました、参考になりました。
- ・寄り合いワークショップ。
- ・住民主体の地域活性化を住民に意識付けさせるワークショップの手法、寄り合い文化の大切さを感じた。
- ・p18 旬の柿ギフト、p26 実行組織の立ち上げと実行、p32,34 10年間の成果、等々に関心を持ちました。
- ・ある程度の具体例の説明があり、わかりやすく、学びがあった。
- ・協働の仕組み。
- ・寄り合いワークショップの仕組と具体例。またその可能性。
- ・地域活性の具体的なスキームが示され理解しやすかった。
- ・ワークショップ手法。
- ・地域住民の頑張りが必要だというお話が印象的でした。
- ・住民主導の持っていく方。
- ・各地での事例は良かった。北杜市に当てはまるかは疑問。

5. 山梨大学COC事業に期待すること、またセミナーやシンポジウム等で希望するテーマ・企画がありましたらお聞かせ下さい。

- ・“地域資源の活用による地域活性”は住民が何気なく食べている物資にヒントがあると考えます。この課題に関するセミナーは是非とも参加したい。
- ・セミナーがとてもわかりやすく、これからの活動に活かそうです。
- ・貴学のセミナーに再度参加できることが楽しみです。
- ・県内リレーセミナーやシンポを行ってほしい。27箇所リレーセミナーなど。
- ・これからの山梨における生産品、特産品の開発促進について。（技術センターとの協同）
- ・COCという言葉が飛び交っていますが、COCとは何でしょうか？どこかに記載説明があったでしょうか？
- ・なぜ人口減少を食い止めなければならないのかが分からない・・・「現状のままではいけない」という危機感が分からないと、能動的な活動に移れないのではないかと。
- ・グリホサートの害を知りたい、害を消去する方法。
- ・花を使った取組み、教育、研究はされていないですか？もしされているようなら、花をテーマにした講演をしてほしいです。本日は大変ありがとうございました。勉強させていただきました。
- ・農業で生計が営まれる流れを構築してほしい。高齢者でも参加できる様々な組織作りを期待しています。
- ・テーマ名と内容を合わせて欲しかった。